

政策分析シート（平成19年度）

政策名	地球環境を守るまちの実現	政策No	07	部名	環境清掃部		
				部長名	新井 基司	内線	480
関連部名	管理部、土木部、教育委員会事務局						
行政評価事業体系	分野	環境先進都市[]					
目的	<p>便利で豊かに過ごせる生活と引き換えに、地球規模で温暖化や廃棄物等の問題がますます深刻化し環境の悪化が急速に進んでいる。</p> <p>かけがえのない地球を将来の世代へ引き継ぐためには、環境への負荷が少ない省エネルギー、省資源型の生活や事業活動を行うとともに、限りある資源を循環して利用する循環型社会への転換をはかることが必要であり、23区に課せられた責務は重大である。</p> <p>そのために、荒川区は、地球環境に配慮した質の高い都市環境を未来に引き継いでいくために、区民一人ひとりが環境問題を考え、行動するとともに、様々な主体が協働して「環境都市あらかわ」の実現をめざす。</p>						
指標	政策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値(28年度)	
	区役所本庁舎温室効果ガス排出量削減率(対11年度比/%)	△6.08	△5.69	(見込)△6.0	(見込)△6.0	△6.0以上	継続的な温室効果ガスの削減
	エコライフチャレンジファミリー世帯数(累計)	1,002	1,382	1,638	(見込)1,900	5,000	参加世帯数の増
	資源の回収量(ト)	11,273	11,392	11,748	11,790	17,000	H18 H28: 目標5割増
	ごみの排出量(ト)	62,138	61,374	60,797	57,282	30,000	H18 H28: 目標5割減
	リサイクル率(%)	15.4	15.7	16.2	17.1	36.2	資源/(ごみ量+資源量)*100
現状と課題(指標分析)	<p>荒川区では平成16年7月に気温41.4(都内2番目)を記録した。地球温暖化やヒートアイランド現象への積極的な対応が求められている。</p> <p>資源のリサイクル率は16%台に止まっており、さらに資源の回収を積極的に進め利用の促進を図る必要がある。</p> <p>ごみの排出量は、人口の増加にもかかわらず減少傾向にあるが、最終処分場の埋め立て可能年数は残りわずかであり、ごみの排出抑制と適正処理への取り組みが不可欠である。</p>						
今後の方向性	[平成19年度]	<p>荒川区の今後の環境政策を総合的、専門的に検討する場として次の懇談会等を開催する。</p> <p>環境都市あらかわづくり懇談会(仮称)エコセンター等に関する構想策定懇談会</p> <p>環境交通政策有識者会議 地球を守る区民会議</p> <p>清掃審議会(一般廃棄物処理基本計画の改定)</p> <p>ごみの排出抑制と資源回収量の増大を図るために、19年度から集団回収モデル事業を全町会で実施する。</p>					
	[平成20年度以降]	<p>環境先進都市を目指し、環境交通の取組みを始めとする荒川区の特性を活かした環境政策を更に推進する。</p> <p>資源循環型社会への取組みを更に推進し、サーマルリサイクルの円滑な実施を行う。</p>					

政策を構成する施策の分類			
施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	前年度設定	今年度設定	
環境配慮活動の推進[07-01]	A	A	地球環境問題への取り組みを推進する。
地域の健康と安全の確保[07-02]	C	C	区民の健康被害を防止する。
資源循環型社会の形成[07-03]	B	B	資源循環型社会を実現する。
ごみの適正処理の推進[07-04]	B	B	快適な生活環境を確保する。